



2018年度 年主題「イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で」

1・2歳児 3月主題 「だいすき」

月のねがい

- ◎大きくなったことを神さまに感謝する
- ◎友だちと一緒に、もの・こと・人にかかわることを喜ぶ
- ◎春の自然に気づき、見つけることを楽しみ、ふれる

3・4・5歳児 3月主題 「期待する」

月のねがい

- ◎イエスさまが共に歩んでくださったことに感謝し、これからも共にいてくださることを信じ、安心と希望をもつ
- ◎友だちや保育者に信頼を寄せ、満足して過ごす
- ◎お互いの成長を喜び、新しい生活に期待をもつ

うれしい春！

わかさ公園の桜もちらほら咲き始めました。その下で散歩を楽しんでいる子どもたち。保育室からは卒園式の歌も流れ始め、それぞれに卒園・進級を意識し始めているようです。

そんなある日、あい組の男の子との会話です
子:「牛乳飲めるようになったからボクのぞみ組になれるよ！」
先生:「嬉しいね！」
子:「うん、小学校になったら牛乳ストローで飲まないでって!のぞみ組さんが教えてくれたよ」
先生:「え～！もう小学校の事を考えているの？」
子:「うん！」
子:「先生、〇〇君のお兄ちゃんは今もうすぐいなくなるの？」
先生:「そうだね。小学校に行くからね！どうして？」
子:「さみしいな～！」
先生:「そうだね。卒園式までいっぱい遊んでもらおうね！」
子:「うん！」

子どもたちはそれぞれに友だちと関わり、いろんなことを考えながら過ごしているようです。4月の頃を思えば、ずいぶん成長を感じます。からだを使って友だちや先生たちと遊ぶことを楽しみ、時にはけんかをし、友だちの思いや気持ちに気付く。『自分が自分か！』の気持ちから、『まあいいか！』と友だちに譲ることも学び始めているすてきな子どもたちです。

卒園式を迎えるまで、遊びを通した楽しい経験をみんな一緒に積んでいけるように、環境を整え、保育を創っていきたいと思います。

園長



今月の聖句「いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら3つです。」
I コリント13:13

歴史も健康も各人の生命も移ろいゆく中で、変わらないものがあります。それが冒頭の言葉です。「信仰」！何を信じる信仰でしょう。天地と人間をはじめすべての被造物を創造された神を信じるものです。私、池田は信仰に入るまでに徹底的に疑いました。疑って疑って疑い続けました。その結果到達したのが創造者である人類の父なる神を受け入れることでした。「希望」！四面楚歌、暗闇の中でなお人を支えるは希望です。自分の手中にあるものを人は望みません。手中に無いものであるからこそ望みます。「希望は練達を生み、練達は信仰を生む」と言われています。

「愛」！「求める愛ではなく、与える愛」の事です。アガペーの愛、博愛です。「信」「望」「愛」は人生一生の課題です。「求める者は得、探す者は見出す」。の言葉があります。いつまでも残るものを求め続けましょう。

前理事長・牧師 池田公榮



星とたんぽぽ
金子みすゞ

青いお空のそこふかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまでしずんで、
星のお星はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬけれどもあるんだよ。

ちつてすがれたたんぽぽの、
かわらのすきにだアまって、
春のくるまでかかれて、
つよいその根はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬけれどもあるんだよ。

3月の行事予定

1日(金)	参観日(3・4・5才)
2日(土)	参観日(2才)
7日(木)	弁当の日
15日(金)	第61回卒園式 父母の会総会
19日(火)	修了式(1号午前保育)
23日(土)	入園準備説明会
29・30日	休園日(新年度準備の為)

4月の行事予定

6日(土)	始園式(1号午前保育)
〃	入園式・新年度クラス会
8日(月)	1号新入園児慣らし保育 未定 田植え、交通安全教室

退職のお知らせ

林川菜由保育教諭が3月末日をもって退職致します。皆様にはこれまで大変お世話になりました。今までのご支援に心より感謝申し上げます。

ひかりの子どもらしく 旅立ちの春

何となく不安定な天候が続いた二月でしたが、寒暖の差はあまり感じられませんでした。いよいよ一雨ごとに暖かみを増してくるでしょう。厳しい寒さの後は、春の光のありがたさをつくづく感じさせられます。お忙しい中でのアンケート提出をありがとうございました。

昨今メディア等で「不寛容」という言葉をよく目にします。意味は「心がせまく、人の言動を受け入れられないこと。他の罪や欠点などを厳しく咎め立てすること。」とのこと。不祥事や失言などがインターネット上に挙がると、非難や批判が殺到し、收拾が付かなくなる、いわゆる「炎上」もその一つでしょうか。最近保育園などから聞こえてくる子どもたちの声も除夜の鐘も風鈴でさえも騒音として苦情が来るとか。光の届かない世知辛い世の中です。ただ、人の親となったり、健康を害してみても初めて分かることというのがあるでしょう。他者に対する寛容は、自分の経験や知識から得る精神の成長であると、実感できるような精進していきたいものです。

『ひかりの子どもらしくあゆみなさい』。子どもたちの「卒園の歌」の歌声が聞こえ始めると、この聖句を卒園生に贈る聖書に書き込んでいきます。一人一人の顔を思い浮かべながら筆を運ぶこの時間は、まさに至福の時です。全職員が人格を形成する大切な乳幼児期に、個々の育ちの過程にしっかりと寄り添えることができたのか。自己肯定感が育まれるような言葉掛けができたのか。発達に最も大切な「あそび」が自由に探求できる環境が整えられたのか。静かに内省する時でもあります。しかし、何よりも集団生活の中で、活動や行事を友だちと共に経験する機会をたくさん備えることができたことは感謝でした。聖書では光の反対の闇のことを「罪」と呼んでいます。法や倫理に反する「犯罪」としての罪ではなく、生まれながらに持っている憎しみ、猜疑心、ねたみ、攻撃心等です。神に背を向けて生きることを言えます。過激化する他者への攻撃や誹謗中傷を知るに、人間はいかに罪深い存在であるかに気づかされます。この暗闇は目に見える世界というよりも、魂の中の暗闇と言えらるのではないのでしょうか。しかし、光の源であるイエス・キリストによって、愛と希望に生きるものとして変えてくださったのです。光は明るく、温かく私たちに照らし、希望を与え、愛の心を育ててくれます。私たちは、すべての園児たちがキリストの光に照らされてきました。多様化する時代にあっても、一歩大切なものは、いつも目に見えないのだというのを忘れずにいてほしいと願っています。心優しいひかりの子として歩むことが出来そうですように祈っております。この一年間、保護者の方々に色々な面でご支援ご協力をお詫びし、心より感謝申し上げます。多くの足らざることを

学園長

＜乳幼児のスキンケアについて＞

桃の節句を迎え、桜も咲き始めました。これから種々の花々が種子島中に咲き誇る美しい季節になります。一方“花粉”や“紫外線”の量が増え始める時期でもあり、UVケアは3月から、と言われます。そこで、今回は乳幼児のお肌ケアについてご紹介したいと思います。

私たちの身体を包んでいる皮膚は、綿密な免疫システムを備えた「臓器」です。例えば、身体の水蒸気の蒸発を防いだり、異物の侵入や紫外線など外的環境から身体を守るなどの重要な機能です。乳幼児のお肌は見た目きれいでも、肌ざわりもふっくら。そんな肌を見ると「スキンケアなんて必要ないのでは？」と思ってしまうかもしれません。でも、実はとってもデリケートなんです。

肌が潤いを損なうと、バリア機能が低下して、外からさまざまな物質が侵入しやすくなります。食べこぼした食品、花粉、ハウスダストに含まれるダニの破片などがアレルギーの原因になる可能性もあります。皮膚トラブルによって痒みなどの不快感から不機嫌になったり、ぐずりがちになることも少なくありません。また紫外線の影響は、日焼けによる皮膚の炎症だけでなく、

健康なお肌は、外からのさまざまな刺激を拒否する働きがあります。

免疫力の低下など健康へのダメージも大きいといえます。デリケートな子どもたちのお肌をケアすることによって乾燥を防ぎ、肌あれを抑制し、細菌やウイルス・紫外線などが身体に侵入するのを防ぎましょう。

スキンケアには①洗浄＝肌を清潔に保ち②保湿＝うるおいを与え③紫外線防御＝紫外線のダメージからからだを守る、の3つの役割があります。この3つのポイントをしっかりとおさえたら、効果的なスキンケアができます。

洗浄は優しく洗い、丁寧にすすぎましょう。保湿はベビー用のミルクローションなどを入浴後と起床時の1日2回、全身にぬっていきます(ひざの裏、腋下などのくびれた部分にもぬり忘れがないように)しっかりとすくくらいが目安です。

紫外線防御は外出時に帽子を忘れず、お肌の露出は控えめに。必要な時は乳幼児用のUVクリームを塗り、入浴時に綺麗に洗い流します。

肌に痒さによるひっかき傷やあかざれなどがある場合は受診をおすすめします。お子さんの肌に合ったローション等を処方してもらえます。

毎日スキンケアを続けるのは大変かもしれませんが、でも、スキンケアをすることは子どもの肌とお母さんの肌が触れ合う貴重な時間にもなります。子どもにやさしく話しかけてスキンケアをはかりながら、楽しくスキンケアしましょう。もちろん、お母さん自身のお肌ケアもていねいに。

木口屋